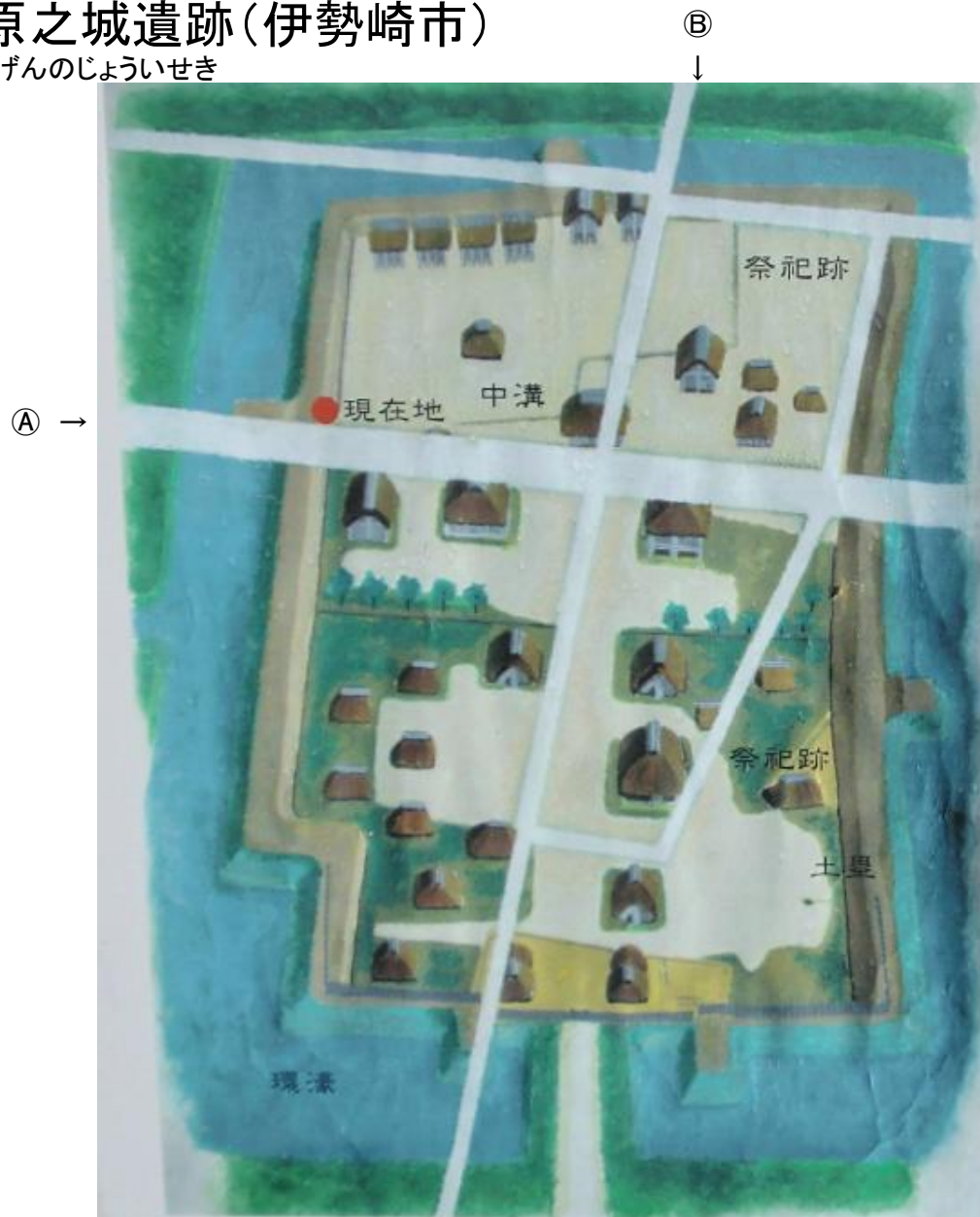


# 原之城遺跡(伊勢崎市)

げんのじょういせき



左は現在地と記された赤丸の位置に立っている説明板の  
図で上が北で下が入口のある南側

現在の道路(白い線)が遺跡を縦横に通っている

この道路は説明板の図の㊸で正面前方にその説明板が立っているの見える



正面は道路の説明板がある側で、溝で区画された北西部の居館跡とされるエリア



こちらは道路の右手で、説明板があるところとは反対のエリア/この前方にも居館が広がっていたらしい



正面の高まりは土塁の名残りとも言われる





高之畑遺跡

高之畑遺跡は、縄文時代後期の遺跡で、約3,000年前のものと推定されています。この遺跡からは、土器、石器、土偶などの遺物が出土しています。また、この遺跡からは、縄文時代の生活様式や文化の発展が窺われています。

高之畑遺跡は、縄文時代の生活様式や文化の発展が窺われる重要な遺跡です。この遺跡からは、土器、石器、土偶などの遺物が出土しています。また、この遺跡からは、縄文時代の生活様式や文化の発展が窺われています。

# 原之<sup>びん</sup>城<sup>の</sup>遺<sup>じょう</sup>跡<sup>い</sup> せき

豊城町



原之城遺跡は6世紀中頃の<sup>ごうぞくきょかん</sup>豪族居館跡です。昭和56年、大正用水東部土地改良事業に伴う事前の発掘調査で発見され、昭和58年から61年までの発掘調査で遺跡の規模や性格が明らかになりました。

居館は東西約110m、南北約170mのほぼ長方形で、幅約20mの<sup>ほり</sup>濠がめぐらされています。全体の面積は30,000㎡を超え、全国で調査された同様の遺跡では最大級のものです。

入口を南に設け、各辺には防御を目的として、土塁をめぐらし張出部を築いています。居館内部は、北西部を溝で区画して<sup>ぽったてばしら</sup>掘立柱建物の倉庫群とし、溝の南側中央に中心建物となる四面<sup>しめん</sup>庇の掘立柱建物があり、その付近に大型の<sup>しめんびやう</sup>竪穴住居、南半部を中心に竪穴住居群を配しています。

北東隅からは、手捏<sup>てづくね</sup>土器や石製模造品、鉄製ミニチュア鎌、<sup>すんき</sup>須恵器の大型<sup>きだい</sup>器台などが出土し、農耕儀礼に伴う<sup>まつり</sup>祭祀跡と考えられます。また、東辺中央南からは楕円形の<sup>はにわ</sup>埴輪状土製品が出土しており、ここでも祭祀が行われたと思われれます。このように壮大な遺構や祭祀に用いた遺物が数多く見つかると、当時の豪族の生活を知る貴重な資料を提供しています。

平成16年3月1日  
伊勢崎市教育委員会





説明板のところから東方向を見たところで、道路の左右に居館が広がっていた



説明板の反対側を見たところ



これは居館の東端を見たところで道路の前方に見える建物は大型ショッピングモール・スマーク



そこから㊸の方向を見たところで、この道路の右手の方に祭祀跡があったようだ



正面の付近が祭祀跡か



そこで振り返って南方向を見たところで、前方左手の向こうにも祭祀跡があったようだ



ここが赤堀歴史民俗資料館



## 原之城遺跡

原之城遺跡は6世紀前半に造られた豪族居館です。周囲を大きな堀で囲み、その中に竪穴建物や掘立柱建物などを建て、生活していたようです。また、居館の中でおまつりなども行われていたようで、多量の祭祀遺物も見つかっています。



原之城遺跡復元模型



掘立柱建物



竪穴建物と掘立柱建物



祭祀遺物と出土状況



これは原之城遺跡の模型



この縦横に走っている道路が見学で歩いた①と②/縦に走る大きな道路①の交差点よりやや右上が説明板のあったところ



参考ホームページ

<http://kdshiro.blog.fc2.com/blog-entry-1239.html>

[http://www.go-isesaki.com/kohun\\_gennojoh.htm](http://www.go-isesaki.com/kohun_gennojoh.htm)

[http://outdoor.geocities.jp/kojyo\\_annai/3\\_kanto/12\\_gunma/harano\\_jyou.html](http://outdoor.geocities.jp/kojyo_annai/3_kanto/12_gunma/harano_jyou.html)

<http://isesaki.jugem.jp/?eid=105>



